

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年2月7日(2013.2.7)

【公表番号】特表2011-504169(P2011-504169A)

【公表日】平成23年2月3日(2011.2.3)

【年通号数】公開・登録公報2011-005

【出願番号】特願2010-532496(P2010-532496)

【国際特許分類】

C 0 7 K 17/00 (2006.01)

C 0 7 K 1/22 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 M 1/00 (2006.01)

A 6 1 K 35/14 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 17/00

C 0 7 K 1/22

C 1 2 N 15/00 F

C 1 2 M 1/00 A

A 6 1 K 35/14 Z

G 0 1 N 33/53 D

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月27日(2012.11.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の工程：

(a) 固相担体を0.1～10% (w/w) または0.1～10% (v/v) の少なくとも1つのシランまたは別の適切なカップラーを含む溶液とともにインキュベーションし、その後溶液を除去する工程；

(b) 担体を生体物質を含有する好ましく緩衝化された水溶液とともにインキュベーションすることにより生体物質を担体に対して結合させ、その後水溶液を除去する工程；そして

(c) (i) (ポリ) ペプチド、アミノ酸、スターチ、糖、ホスフェート、ポリアルコール、ポリエチレングリコール (PEG) またはこれらの混合物から選択される1またはそれ以上の物質を含む水溶液、(ii) イオン液体、または(iii) 適合性溶質、またはそれらの混合物、中で担体をインキュベーションして、それにより生体物質を部分的にまたは完全に1またはそれ以上の物質により被覆する工程；

を含む、生体物質を保持する固相コーティング担体を製造する方法。

【請求項2】

生体物質が、真核細胞、真核細胞のフラグメント、原核生物、原核生物のフラグメント、古細菌、古細菌のフラグメント、ウィルス、およびウィルスフラグメント、からなる群から選択される、請求項1のいずれか1項に記載の方法。

【請求項3】

真核細胞のフラグメント、原核生物のフラグメント、古細菌のフラグメントまたはウィルスフラグメントが、(ポリ)ペプチド、オリゴヌクレオチド、ポリヌクレオチドおよび多糖からなる群から選択される、請求項2に記載の方法。

【請求項4】

(ポリ)ペプチドが受容体である、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

受容体が、抗体、抗体フラグメントまたは抗体誘導体である、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

固相コーティング担体を滅菌する工程(e)をさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

担体の滅菌が、エチレンオキシド(EO)、線照射、線照射、X-線、加熱不活性化、オートクレーブ、またはプラズマ滅菌により行われる、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

請求項1~7のいずれか1項に記載の方法により製造可能であるか製造される、固相コーティング担体。

【請求項9】

生体物質が、担体と直接的に接触する少なくとも1つのシランの第1層、および少なくとも1つの(ポリ)ペプチド、少なくとも1つのアミノ酸、スターチ、少なくとも1つの糖、少なくとも1つのホスフェート、少なくとも1つのポリアルコールおよびポリエチレングリコール(PEG)またはそれらの混合物からなる群から選択される少なくとも1つの物質からなる、第1層を部分的にまたは完全に被覆する第2層、からなるコーティングマトリクス中に包埋される、生体物質を結合させる固相コーティング担体。

【請求項10】

生体物質が、真核細胞、真核細胞のフラグメント、原核生物、原核生物のフラグメント、古細菌、古細菌のフラグメント、ウィルス、およびウィルスのフラグメントからなる群から選択される、請求項9に記載の担体。

【請求項11】

真核細胞のフラグメント、原核生物のフラグメント、古細菌のフラグメント、またはウィルスのフラグメントが、(ポリ)ペプチド、オリゴヌクレオチド、ポリヌクレオチドおよび多糖からなる群から選択される、請求項10に記載の担体。

【請求項12】

(ポリ)ペプチドが受容体である、請求項9~11のいずれか1項に記載の担体。

【請求項13】

受容体が、抗体、抗体フラグメントまたは抗体誘導体である、請求項12に記載の担体。

【請求項14】

担体を線照射または線照射により滅菌する、請求項9~13のいずれか1項に記載の担体。

【請求項15】

患者の血液、リンパ、または脳脊髄液を接触させ、濾過し、または清浄化するための医薬品の調製のための、請求項9~14のいずれか1項に記載の固相コーティング担体の使用。

【請求項16】

血液、リンパ、または脳脊髄液を、請求項9~14のいずれか1項に記載の固相コーティング担体と接触させることを含む、患者の血液、リンパ、または脳脊髄液の組成物の操作のための方法。

【請求項17】

以下の工程：

(a) 病原体または疾患についての指標となるマーカータンパク質の、包埋された受容体に対する特異的結合のために適切な条件下、患者の体液を、請求項12~14のいずれか1項に記載の固相コーティング担体と接触させる工程；そして

(b) 病原体または疾患についての指標となるマーカータンパク質が、包埋された受容

体に結合したかどうかを検出する工程；  
を含む、疾患の診断のための方法。

【請求項 18】

受容体が、抗体、抗体フラグメントまたは抗体誘導体である、請求項17に記載の方法。

【請求項 19】

請求項9～14のいずれか1項に記載の固相コーティング担体を含む、診断用組成物。

【請求項 20】

精製されるべき化合物を含む混合物を、請求項9～14のいずれか1項に記載の固相コーティング担体に対して接触させることを含む、化合物を精製する方法。